

福祉文教委員会先進地視察報告書

日 時	平成29年10月19日(木)午後1時から午後3時まで
視 察 先	東京都羽村市
視 察 項 目	小中一貫教育の取り組みについて
視 察 者	委 員 長 渡邊眞弓 副委員長 伊藤清一郎 委 員 林 正則、久野たき、富田一太郎、勝崎泰生、夏目 豊
視 察 内 容	<p>羽村市では、2学期制の導入や小中一貫教育の実施など特色ある学校教育を進めていた。中でも視察項目の小中一貫教育の取り組みは、平成24年度から全中学校区で実施されており、児童生徒の交流をふやすこと、教員同士の定期的な交流、義務教育9年間を通した郷土学習の実施などが行われていた。</p> <p>導入の効果については、小学校と中学校を中心とした取り組みは、児童と生徒が様々な交流をすることにより、小学生が中学生に対して、つながりを大切にし憧れを持ち、中学校一年生への不安の解消になり、また、小学校と中学校の教員が頻繁に顔をあわせることにより、情報共有や生活指導上の指導内容を統一化できたとのことであった。</p> <p>今後は、これまでの取り組みの成果・課題を踏まえながら、学校教育の充実を図るため、小中一貫教育を推進していくとのことであり、具体的には、施設隣接型で実施している学校区の小学校と中学校の校舎の接続や両校間の公道を取り除くことなどの検討や小中一貫教育の検証を毎年度実施し、改善を図っていくとのことであった。</p>
所 感	<p>小中一貫教育については、平成13年ごろから教育改革が始まった時期にあわせ、16年度から導入の準備が始まり、24年度から全中学校区で実施されていた。小中一貫教育は、施設隣接または一体型のイメージで考えていたが、今回の視察で施設分離型の取り組みを確認でき、本市に置き換えた場合の具体的なイメージが明確になったが、分離型では交流機会や教職員の相互支援における児童生徒・教職員の負担が課題であると感じた。</p> <p>導入の目的としては、中1ギャップの解消が一番重要であると考えている。小学校6年生の3月下旬から中学校に入学する間の2週間で環境が大きく変わり、学校生活に上手くなじめない子が不登校やいじめに遭う可能性が高くなってしまう。この課題が減少傾向になるならば児童と生徒の交流は有意義であると感じた。また、教員同士の交流も小学校の文化（教員は授業を一生懸命）と中学校の文化（教員は生活指導を一生懸命）をあわせながらよいものにしていくために行っているという話は大変参考になった。</p> <p>羽村学（郷土学習）は郷土愛を育むには最適な9年間のカリキュラムとなっており、本市においても9年間を通した活動として取り組むことで、地域を愛し貢献できる人材育成につながるのではと感じた。</p> <p>本市においても、児童生徒の減少傾向が著しい学区があるので、将来的な導入を検討する上で参考となる視察となった。</p>

日 時	平成29年10月20日(金)午前10時から正午まで
視 察 先	東京都稲城市
視 察 項 目	オーエンス健康プラザについて
視 察 者	委 員 長 渡邊眞弓 副委員長 伊藤清一郎 委 員 林 正則、久野たき、富田一太郎、勝崎泰生、夏目 豊
視 察 内 容	<p>稲城市の健康増進施設であるオーエンス健康プラザは、ごみ処理施設であるクリーンセンター多摩川の新炉整備に伴う地元環境整備事業の一環として計画され、平成24年5月から開館している。</p> <p>この健康増進施設は、ごみ処理施設で発生する余熱をプールの温めや空調に使用していることなど、環境に配慮した施設となっていた。</p> <p>施設の目的である運動習慣の継続の推進、生活習慣病の予防・改善が図られるような指定管理者による運動教室が実施されていた。</p> <p>年間利用者は当初想定していた8万3,000人を超えており、各種教室の利用者の満足度も高いとのことである。今後も、年間想定利用者を超えるように、新たな利用者開拓のため無料教室の企画運営、人気の高い教室は有料教室にしたり、1回制からコース制にしたりするなど利用者のニーズにあわせた運営を進めていくとのことであった。</p> <p>施設の現状把握と利用者の要望や意見を反映して、より快適な施設とするため、モニタリングを実施していき、これからの施設運営に活かしていくなど利用者目線の取り組みが進められていた。</p>
所 感	<p>稲城市の健康増進施設は、熱源として清掃センターで発生する余熱を利用する方式をとっていた。実際に維持管理や温水の漏洩トラブルなどの事例を確認でき、本市で検討している新しいごみ処理施設で発電した電気エネルギーの利活用による施設運営の有効性が確認できた。</p> <p>施設運営面における、プール利用者とジム利用者を分ける更衣室のレイアウト、プールコースは6コースでは学校利用を考慮すると少ないので、できればコース幅を広くしたプールコースの配置、専用水中ウォーキング施設の充実などプールの有効活用についても確認することができた。</p> <p>同施設は、稲城市立病院健診センター及び外来棟と併設されており、病院との健康づくりに関する連携事業などの取り組みは、本市にはないものであると感じた。施設には、立体駐車場もあり、市内の循環バスの便数が多く、多くの市民に利用されているよい施設であると感じた。フィットネスジムやプールなどで様々な無料教室を行い、人気がある教室は継続するなど利用者の要望に応じた運営は参考になった。</p> <p>本市と東海市で今後進めていく健康増進施設の建設に向けて、温水の確保、運動教室の実施、管理運営の方法などの有効性・課題を認識することのできた有意義な視察であった。</p>